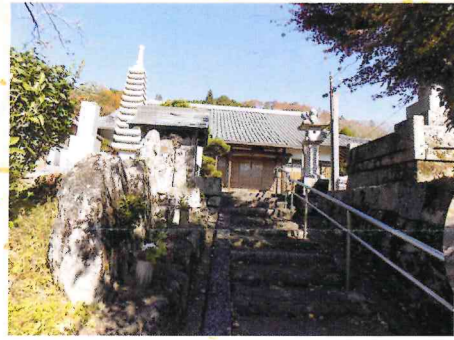


室生笠間 散策マップ

1 春覚寺



本尊は阿弥陀如来であるが、本堂には木造地藏菩薩立像も祀られている。これは像高約 80cm の玉眼入寄木造立像で、極めて精巧な截金（きりかね）文様が施されている。台座裏には墨書で康元元年（1256）に快成作の原銘があり、さらに東大寺大仏殿の正面西脇の替柱として寄進したものが、回向のため残りの材木を原材料として作ったと記されている。昭和 24 年、名匠快慶の作風を学びそれを定着させた好例として、国の重要文化財に指定。

2 井上紺屋（藍染工房）



庭先に藍染されたスカーフやタオルが干され、そよ風になびき本当に綺麗です。笠間藍染は江戸時代から室生下笠間で発展した伝統的な藍染の手法です。古くは多くの工房がありましたが、化学染料の使用が広まった結果、今ではここ「井上紺屋」のみとなりました。

見学・ハンカチの藍染め体験（所要時間：約 1 時間）が可能です。

※要事前連絡 ☎0745-92-3607

3 九頭神社



その昔、この地域には上ノ宮という社があり、そこにはヒビ猿の鬼がいて、毎年うら若い娘を人身御供にさし出させていた。ある時、村の人々がザクロの実が人間の肉の味に似ているのを知り、人身御供の代わりにザクロをさしあげたという伝説が残っている。その事がきっかけで、上ノ宮を分祀したこの九頭神社へ、ザクロとキュウリを供えるようになったという話が残っている。

この神社は広い境内に巨樹が林立していることから、室町時代前期頃の創立ともいわれている。

4 新宮神社



この神社の由来は、春日神社の一神である武甕槌命が笠間峠を通った時に、大雨のためこの地で留まれ、その時置かれていった神鏡を祀ったといわれている。元は、旧名張街道の岩ノ山の頂上に祀られていたといわれている。

その後、山頂は峻険なため、約 480 年前に今の場所に移され、年代は不明であるが室町時代らしき様式がある。

また、この神社の『狛犬』は、向かい合ってお尻を上げている。たてがみもあるので獅子と考えられる。

5 阿弥陀如来立像摩崖仏

この阿弥陀三尊は、三米余の花崗岩に刻まれ、向って右側には梵字の（サ）観世菩薩が、左には（サク）勢至菩薩が刻まれ、滝之尾長者一夜の作と伝えられている。

碑文より浄土宗の信者と思われる、石仏が出来た当時の室町時代中期から、明治初期までの約四百年間多くの旅人が、安全を祈願してお伊勢詣りをしたと伝えられている。今も霊験あらたかな仏様として崇拝されている。



6 小原の滝

室生上笠間（滝ノ尾）に長者がいて、大和でも屈指の名石大工で沢山の財を残した。しかし、妻を亡くし息子も行方知れずとなり、生きるのに疲れ滝壺にありったけの大判小判を投げ込んで身投げをしたという伝説がある。参考文献 新日本妖怪紀行（日本妖怪研究所 所長 亀井澄夫）

また、三原皇子女が滝に入水自殺したおり、笠間地区総出で空木（うつぎ）の木で引っかけ救助されたという伝説があり、今も村人は 1 月 7 日山の神に空木をお供える。



7 笠塔婆



平家落人伝説 一旦吉野に逃れた平家公達の子孫が、三原皇伝説の残るこの地に移住。釈迦三尊と笠塔婆を建立（1298 年）

8 極楽寺・しだれ桜



安徳帝（1178-1185 年）の結願寺とする。江戸幕府より桜を賜る（約 300 年前）。子安地藏としても有名。

樹齢約 300 年余りといわれ、大正年間の火災で寺が焼失した時も燃えずに残り、毎年美しい花を咲かせている。境内には五輪塔をはじめ寺の名残がいくつか残っており、それらから室町時代の頃からこの寺があったとされている。

9 長持石



滝ノ尾長者の裏山に大きな長持ち石がある。お金に困った村人が「金銀財宝が入っている」と思い打ち破ろうとしたら雷が鳴り大雨、後日割ろうとしたらまたもや雷と大雨。何度やっても雷と大雨が降るのであきらめたという伝説がある。参考文献 新日本妖怪紀行（日本妖怪研究所 所長 亀井澄夫）

10 神明神社



この地は奈良時代より、天皇の名代として伊勢の神宮に奉仕する皇女の経路として重要な役割を果たしてきた。

この神社は室町時代に創建されたと考えられ、元は熊野系の十二所権現社で明治時代以降にこの名前になった。境内には古く貴重な碑等があり、特に本殿右下にある石造十三重塔は、室町中期の層塔として貴重とされている。また、鎮守の森としても有名。

11 深野ササユリ保存会

室生深野地域は、「にほんの里 100 選」にも選ばれた青山高原や台高山脈を遠望できる風光明媚な土地です。この地域では、田舎の原風景を保つために集落を挙げてササユリの保存・増殖に取り組んでおり、日本ユネスコ協会の第 4 回「未来遺産」に認定された。

